

社会福祉法人塩釜市社会福祉協議会
令和3年度第1回小規模多機能型居宅介護松ぼっくり運営推進会議
議事録

1. 日 時 令和3年5月28日（金曜日）
開会 午後5時30分～ 閉会 午後6時35分

2. 場 所 小規模多機能型居宅介護松ぼっくり

3. 出席者 三上長治 永野やすえ 阿部幸 石村要
(委員総数6名中4名出席)

松ぼっくり

吉田所長 大松澤主任 小野看護師

社会福祉協議会

山本次長 曾根課長

欠席者 遠藤春夫 欠員1名

1.開 会

2.協 議 (要旨)

① 利用状況

- ・ 現在14名登録。女性9名、男性5名。
- ・ 要支援1 0名 要支援2 1名 要介護1 8名
要介護2 2名 要介護3 2名 要介護4 0名
要介護5 1名
- ・ 認知症加算Ⅰの算定者は5名。認知症自立度Ⅲ以上の方となり、常時見守りが必要。
- ・ 訪問、通い、泊まりの3つのサービスに同じ職員が対応するため、利用者の混乱が少なく、職員間の情報の共有がし易い。
- ・ 4月の相談件数は6件。ケアマネ事業所や包括センターから。新規の登録につながった方は1名。契約終了者は無し。
- ・ 5月の登録者数は15名の見込み。

② 運営状況

- ・ 新規登録者が少ない傾向。これまで 20 名前後の登録者があったが、15 名前後に落ちている。コロナの影響もあるだろうが、松ぼっくりが地域からどう認知されているのかを考える機会となっている。
- ・ 通所よりも訪問のニーズが多くなっている。365 日、柔軟なサービス提供で在宅生活を支えているが、それにはしっかりとした職員体制が必要。「出来ないではなく、どうやったらやれるのか」を日々考えている。

(永野委員)

5 月より受け入れてもらった方の件で、介護者より「柔軟に対応して頂いた」と感謝の電話があった。母一人、子一人の家族で、その方々が選んだ生き方をしっかり支えて欲しい。

(永野委員)

泊まりの場合、同性介護を心がけているのか？

(大松澤主任)

男性が宿泊する場合は吉田所長に、女性の場合は女性職員で対応している。

(吉田所長)

シフトを組む上で、職員に負担をかけてしまう。また、高齢の職員も多く、体力的に厳しい状況。職員募集もかけているが、芳しくなく、知恵を絞りながらの業務となっている。

- ・ 制度の緩和により、登録者以外の宿泊サービスが認められるようになった。松ぼっくりを知っていただくきっかけとなるよう努めたいが、反面、コロナ感染のリスクが高まるので、積極的には取り組めない状況にある。

(阿部委員)

365 日 24 時間の支援ということで、身体に十分気をつけて業務にあたって欲しい。通所について、週の利用回数に制限はあるのか？

(吉田所長)

週に何回という決まりはない。ニーズやバランスを考え、家族や本人と相談しながら決めさせていただいている。

(阿部委員)

軽度の方で、服薬確認等をするケースはあるか？

(吉田所長)

ある。要支援で薬の飲み忘れがある方に毎日訪問している。

(阿部委員)

介護度の関係で毎日はいれないケースもあり、そのような方には合っている。今後、多くなるかもしれない。

(永野委員)

コロナワクチンの予約もできない高齢者が多い。施設で応援してもらおうとありがたい。

(小野看護師)

予約が始まってから、随時家族に状況を伺っている。2名が未確認で、接種を選択しない方もいた。もう1回目が終わった方もいるし、予約を手伝わなくてはならないと思える方もいる。

(阿部委員)

包括センターとしても認知症や独居の方の確認はしている。市の方で予約の手伝う仕組みもあるが、赴かなくてはならない。

(石村委員)

決め細やかではなくて申し訳ないが、遅ればせながら福祉事務所に窓口を設けた。福祉事務所に来られない方はもちろん、接種があることすら知らない人もいる。予約のない方については、市からのアプローチをしなければならないと思っている。

(永野委員)

市から「どうですか？」と声がけがあると思いついでいる方もいる。

(石村委員)

しっかり担当課へ申し伝える。案内を読めば分かると思っているのが、そもそも間違いだ。

(山本次長)

保健センターの窓口でも予約申請を始めた。本人でなくても可能で、接種券と代理人の身分証があればよい。障害者手帳所持者には担当課から積極的に連絡をしているようだ。介護事業所が接種会場に同行するケースもある。5月25日現在、市内65歳以上の77%が予約済みとのこと。

(永野委員)

予約の電話については、夕方がつながり易いようだ。気になる方については、包括センターにお願いした。

③ ケース報告

- ・ Sさんの終末期については、5月に死去と報告した方の件だ。

(大松澤主任)

平成28年に利用開始。毎日通所され、家族とも信頼関係ができていた。2月下旬、急性膵炎で市立病院へ入院。食事が摂れなくなり体調が思わしくない中、松ぼっくりの訪問サービスで在宅生活となった。本人への排泄介助と水分補給、更衣等と並行して介護者の娘さんに寄り添うことを重視した。本人は良いことは良い、嫌なことは嫌と職員と意思疎通を図りながら、最期を迎えた。終末ケアに初めて携わる職員もいて、不安な気持ちを持っていたが、訪問ケアの看護師と密に連絡を取ることで、不安を解消した。やれることはやったと思う。苦痛もなく息を引き取り、本人にとって理想どおりの最期だった。松ぼっくりとして、職員や他機関とチームケアができた良い経験を積んだ。

(吉田所長)

介護者が在宅を選択した。コロナ禍で面会できない理由もあり、母との時間を大事にした。市立病院の医師の理解もあった。ありがたい経験、いろいろな学びをいただけた。

④ その他

- ・ 介入困難ケースあり。「自分は大丈夫だ」と言って、薬も飲まないし、家族も遠方。宅食サービスは半年をかけて入れるようになった。
- ・ 腹膜透析を受けている方の相談があった。毎日1時間程度の自己透析が必要で、手伝いがないと難しくなっている。医療行為を継続して提供できるか検討が必要なので回答を保留している。腹膜透析について勉強不足のところもあり、次回の職員会議で業者を招いての勉強会を開催する。
- ・ 外部評価について今年度も協力をお願いする。コロナの影響により前年度は評価をお願いできなかった。(資料を説明した)
- ・ ヒヤリハットが1件あり。和室入口の段差で躓き、しりもちをついたもの。この段差をバリアフリーにしたい気持ちもあるが、費用や日数がかかる。

(石村委員)

外部評価の提出は来年に入ってからでいいのか？

(吉田所長)

そうなる。提出時期になったら改めて依頼をさせていただく。

(永野委員)

ワクチン接種は任意なのか？

(石村委員)

あくまで任意だ。最近の報道で、「施設での接種は強制だ」と弁護士会で声を上げていた。「お互いに協力して対策しよう」とは考えないのだろうか？ 任意であるが市として、予約を入れない方へのアプローチをすることになるだろう。

(永野委員)

主治医の意見を聞いてから予約を入れるという方もいた。

(三上委員)

介護者の方がコロナを理由に利用を控えさせるケースはあったのか？

(吉田所長)

昨年3～5月にかけて利用控えがあった。高齢ということもあり、自宅で過ごされていたが、廃用症候群というリスクもあった。

(阿部委員)

自粛、自粛で運動していないから足腰が弱り転倒するケース、また、認知症が進み介護が必要になったケースもある。

(吉田所長)

現在のところ、利用控えはない。

(三上委員)

感染も落ち着いているし、ある意味慣れが生じたのだろう。

(永野委員)

接種会場を見てみたら、非常にスムーズに流れていた。

(阿部委員)

接種のやり方、予約の取り方については他から評価されているようだ。

(石村委員)

会場を仕切っているのが、若い優秀な職員だ。伝えておく。

(三上委員)

医師は何名で対応しているのか？

(石村委員)

1～2名だが、いずれ3名体制にする。30分あれば終了すると思う。

次回 令和3年7月28日(水) 17:30～